

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	241	学校名	仙台市立吉成中学校	校長名	洞口 乃
------	-----	-----	-----------	-----	------



1 テーマ 「地域との連携や委員会活動を中心とした環境教育活動の取組」

2 取組の紹介

本校の学区内には林や公園などが点在し、自然豊かな環境にあります。本校の環境教育・ボランティア活動の中核を担う生徒会組織の1つである「よしボラ委員会」が中心となり活動してきました。コロナ禍の影響で活動の制約がありましたが、実施可能な活動から以下の取組を行いました。

(1) 落ち葉掃き活動(よしボラ委員会・全校生徒)

毎年恒例となっている学区内の公園や道路の落ち葉掃き活動を、今年は11月15日(火)に地域連携や小中連携を兼ね、町内会の方々や吉成小学校の5・6年生の児童らと共に落ち葉掃きの清掃活動を実施しました。よしボラ委員会の生徒が中心となって大量の落ち葉を集め、地区の美化と安全、そして環境整備に貢献することができました。

(2) 雪かきボランティア活動

本校は仙台市西部の丘陵地にあるため、積雪量が多い地域です。雪の降った朝には、ボランティアの生徒たちが雪かきを率先して行い安全に貢献しています。

(3) 花壇の苗植え(大人もよしボラ「PTA緑化活動」)

保護者ボランティアによるPTA緑化活動が11月10日に行われました。今回は地域の方6名が参加し、冬から春にかけての花苗をそれぞれ植えました。学校と地域が協力して地域の自然環境の一端である校地内の環境を整えることができました。

3 取組の成果

今年度は、よしボラ委員会を中心とした落ち葉掃き活動で、地域の環境整備に貢献することができました。自分たちが住む地域の良さを知り、それを支える様々な人との関わりの大切さを学んでいると感じています。コロナ禍の前に行っていた活動が途切れがちになっていますが、活動の再開によって吉成中学校の良き伝統の一つである活動がしっかりと引き継がれ始めたと思います。地域との連携や小中連携をしながら、共に住みよい、また住み続けられるまちづくりに貢献できました。コロナ禍以前に行っていた地域の行事などへの参加やお手伝い、小学校に出向いての夏休み「出前講座」なども実施可能な形を模索しながら活動を継承し、住みつけられるまちづくりを目指したいと考えています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	242	学校名	仙台市立秋保中学校	校長名	山口 善広
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ ～地球に良いことを実践しよう～



2 取組の紹介

(1) 花いっぱい活動

ボランティア委員会では、プランターや花壇に花の苗を植え花いっぱい活動を進めています。



(2) 古紙回収

各クラスにリサイクルボックスが設置されており、生徒たちが進んで資源保護のための活動を行っています。



(3) 省エネ活動

生徒会活動の一環として節水、節電などを呼び掛けています。



(4) プラスチック削減についての話合い活動

タブレット端末の機能を使い、マイクロプラスチック問題などについて話し合いました。



3 取組の成果

これまで生徒は何気なく使用していたプラスチックに対して環境とのつながりについて深く考えていませんでした。今回の話し合い活動などを通して、環境問題について自分なりの意見を持ち、取り組む必要性を痛感していました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	243	学校名	仙台市立七北田中学校	校長名	桜井 泰実
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

「学校全体で取り組むエコ・スクール」



2 取組の紹介

①資源の有効活用 (リサイクル・リユース)

新聞の記事や、新聞自体を教材として再利用するため、新しい新聞と古新聞を分けて、用途に応じて使えるようにしています。



片面印刷 (再利用可)

サイズごとに分別して回収



職員室前の古紙回収棚

②食缶からっぽキャンペーン

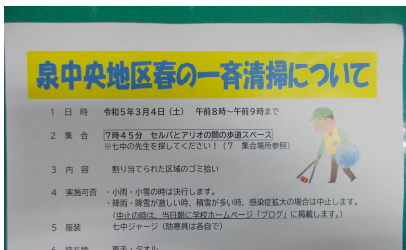
1週間の間、残食を目に見える形で提示し、フードロスに対する意識を持たせる取組です。



キャンペーンが始まると、普段よりも残食が減ると給食担当の教員が実感していました。

③ボランティア活動

個人や部活動単位でボランティアへの参加生徒を募り、地域の美化活動に励んでいます。



泉地区を大人数のボランティアで清掃します

いつも自分たちの通る道のゴミの多さに驚き…

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

古紙の回収は、生徒が主体となって呼び掛けや回収を実施することができています。ボランティア活動においても、部活動での参加だけでなく、個人での参加が増え、自分のゴミの処理の仕方を振り返る姿がありました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	244	学校名	仙台市立根白石中学校	校長名	清野 智子
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ
「日常の学校教育活動における環境活動」



2 取組の紹介

① 学校梅園での梅の実収穫

本校では、特色ある教育活動として、6月に学校敷地内にある梅林に実った梅を全校生徒で収穫しています。収穫した梅はPTAを通して希望される保護者や地域の方にお譲りし、収益金は、PTA活動、梅園の維持に活用しています。



② 全校奉仕作業 (除草作業)

PTA 総務研修委員会が主催して、年に2回、全校生徒と教職員、保護者が参加して校地内の清掃活動を行っています。本校の良さは、地域の行事に生徒や保護者が積極的に参加するところで、学校環境の美化や保全につながっています。



③ 野外活動における環境学習

2年野外活動では、気仙沼・唐桑半島で活動するNPO法人「森は海の恋人」を訪問し、豊かな自然環境の中で人と自然のつながりを体験的に学習できるプログラムに参加し、自然環境保全について学びを深めています。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

新型コロナウイルス感染症の影響で、活動時には感染症対策を講じるなど、様々な配慮の中での実施でしたが、それぞれの活動を通して、生徒自身が環境問題に対する理解を深め、自ら考え、解決に向けて行動する資質や能力を高めることができたと感じています。

また、持続可能な開発目標 (SDGs) の中に示されている⑫つくる責任つかう責任 (持続可能な生産消費形態の確保), ⑭海の豊かさを守ろう (海洋・海洋資源の保全や利用), ⑮陸の豊かさを守ろう (陸域生態系の保護, 回復, 持続可能な利用の推進) などが、活動内容に関連しており、生徒自身がこれらの取組をとおして、目標について少しでも意識できればと感じています。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	245	学校名	仙台市立八乙女中学校	校長名	齋藤 亘弘
------	-----	-----	------------	-----	-------

- 1 取組のタイトル、テーマ
生活の中に「エコ」を取り入れよう



2 取組の紹介

◇古紙回収ボックスの設置

- 不要になった紙を各学年、各職員で回収ボックスに入れ、古紙をリサイクルする活動をした。回収した古紙は紐で結び、古紙回収へと送られる。ボランティア委員会を中心に呼び掛けを行うことでリサイクルへの意識付けを行った。

◇省エネルギー・省資源対策

- 教室移動時の消灯やヒーター設定温度の引き下げ、移動時の消火、水やトイレトペーパーの節約の呼び掛けを行った。
- 窓際に黒色の画用紙を巻いたペットボトルを置き日光を当てたり、ヒーターの上にペットボトルを置いたりすることで水を温め、清掃時に活用した。

◇学校でのリサイクル活動

- 各学級に普通ゴミとプラゴミのゴミ箱を設置し、リサイクルに対する実践力を養うため、日常的にゴミの分別収集の呼び掛けを行った。

◇緑の募金

- ボランティア委員会を中心に募金活動を行った。募金で集まったお金は国土緑化推進機構に送られ、森林を増やす活動に使われ、今年度は、10,275円集まった。

◇SDGsに向けての取組

- 1学年ではSDGsについての調べ学習をとおして、自分自身が今日から始められることは何か、具体的な目標を立てて生活の中に取り入れる活動を行った。
- 2学年では野外活動の中で海洋ゴミを拾い、その量を競うスポーツGOMI拾いの活動を行うことで、目標No.14「海の豊かさを守ろう」への関心や理解を深めた。
- 文化祭で他の学年にも共有し、今自分たちに何ができるのかを考えた。

古紙回収ボックス



清掃用の水



ゴミ分別の様子

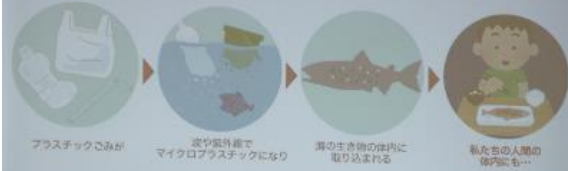


プラスチックの破片が多いこと、それらのゴミの多くは私たちの生活から排出され、生物への影響が大きいことも分かった。



地域に与える影響

- 魚などへの影響だけではなく魚を食べる私達にも影響が出てくる。
- 地域の海の環境汚染や漁業を営む人への被害が懸念されている。
- 対策を進めていかなければならない。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

各教科の中でもSDGsについて扱う機会が多く、生徒の生活にかなり身近なものになってきた。各学年で行われた内容を行事や掲示物をとおして全校で共有でき、更に意識する生徒が増えたように感じる。これらのような取組を家庭や卒業後の生活の中で行っていくことが持続可能な社会へつながっていく。環境に対して自分ができることを考え、行動しようとする気持ちを育めるよう、その場だけの活動や指導にせず、今後も学校全体として継続していく。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	246	学校名	仙台市立将監中学校	校長名	渡部 健一
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ

毎日の生活に取り入れられるSDGsを目指して



2 取組の紹介

特別支援学級と連携した花の植え替えと管理

春と秋の2回校地内花壇を整備しています。特別支援学級が花壇の土の入れ替えをして、JRC委員会が約600本の花の苗を植えました。花壇の管理として、JRC委員会が週替わりで花壇の水やり等を行っています。



SDGsを視野に入れた取組

「3R (リユース・リデュース・リサイクル) 活動」(通年)

職員室や印刷室にプリントのリユースBOXを設置し、裏面印刷をして紙を再利用しています。教室や職員室では、ごみを分別してプラスチック資源循環を推進しています。また、卒業生から制服を譲り受けて再利用する取組もしています。



野菜作りと販売活動(夏・秋)

特別支援学級では、夏と秋に販売会を実施しています。畑を耕し種を植え、水やりや雑草抜き等、手塩にかけて無農薬野菜を作りました。自分たちが一から育てた野菜を販売することで、生徒の働く意欲を培い、将来の職業観を養うことができる学習となりました。



地域貢献体験活動 (CoCo 活) (通年)

地域の団体からの要請を受けて多種多様な活動を行いました。今年度は、町内会の依頼を受けて公園の草取りやゴミ拾い等を行う美化活動や学区内の児童館で長期休業中の小学生の遊び相手をしたり、児童センターや市民センターで行われたまつりの運営ボランティアをしたりしました。



3 取組の成果

学校内の清掃活動や緑化活動を通じて、清潔な環境を整えることの大切さや、植物を大切に育てていく気持ちを養うことができました。また、地域に貢献できる活動を行う中で、感謝の言葉をいただき自己有用感や達成感が高まっていると感じました。毎日の生活の中でできることを大切に、生活の一部として3Rを続け、循環型社会へ貢献できるようにしていきます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	247	学校名	仙台市立南光台中学校	校長名	今野 浩平
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 テーマ

「生徒が積極的に関わる清掃・エコ活動」



2 取組の紹介

年間の取組・活動(生徒の活動)の概要

① グッドモーニングクリーニングデーの実施

ボランティア委員会による南光台中学校伝統の奉仕活動です。

グッドモーニングクリーニングデーを実施する前日まで全校生徒に呼び掛けを行い、実施日には自宅から学校まで通学路に落ちているゴミを拾いながら登校します。拾ったゴミは、自宅にある不要なビニール袋などを再利用します。ゴミを回収する際には、燃えるゴミと燃えないゴミを分別しています。毎回、約45Lのゴミ袋で約2個分のゴミが回収されています。



【グッドモーニングクリーニングデーの様子】

② エコキャップ・プルタブの回収

ボランティア委員会によるエコ活動です。

ポスターなどで呼び掛けをして、毎月1回程度、エコキャップ・プルタブの回収を行っています。まだ、実績を上げるほど回収はできていませんが、今後も活動を続けることで支援活動につなげようと全校生徒で取り組んでいます。



【エコキャップ・プルタブ回収】

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

生徒が積極的に活動するグッドモーニングクリーニングデーは、地域の清掃活動に大きく貢献しています。今年は、ボランティア委員会だけでなく生活委員会も一緒になって呼び掛けや準備などを行いました。今後も南光台中学校区の地域の皆様に頼られ、協働して快適なまちづくりを目指すような中学校・中学生を目指して活動していきます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	248	学校名	仙台市立向陽台中学校	校長名	廣島 利夫
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル

生徒会や清掃活動の中で取り組む環境教育



2 取組の紹介

(1) 専門委員会・生徒会の活動

学校の環境整備を担う環境委員会では、以下の活動をしています。

- ・毎月1回の古紙回収と定期的な掃除用具点検
- ・ほうきのゴミ取り活動
- ・年3回の美化週間（清掃強化期間）の計画から実行まで

給食のマナーや食育推進を担う給食委員会では、以下の活動をしています。

- ・給食のメニューや栄養素に関する話題を、昼の放送で広報
- ・給食中のマナーや残食を減らすことを呼び掛け、ポスターを製作・掲示
- ・ストローとストロー袋の回収・管理の徹底

生徒会執行部では、あいさつ運動や桜の花びら掃き、落ち葉掃き、雪かき、特別養護老人ホーム訪問などのボランティアを企画し、参加を呼び掛け、率先して活動をしています。委員会等の活動を活性化することは、環境保全・美化活動への更なる取組とともに、学校や地域を愛する気持ちが高まることと期待しています。

(2) 水筒持参の習慣

平成29年度の生徒総会で承認されて以来、生徒たちは日常の水分補給として水筒を持参しています。中身は水かお茶、スポーツドリンクのみですが、毎日持参することができます。自分たちで決めた意義を理解した上で、水筒持参の習慣が身に付いているため、弁当のときでもペットボトルや清涼飲料水を持ち込みません。自然とゴミを出さないことが身に付き、環境保全を目指した生活を実感しています。

(3) 清掃用具の工夫

ワックス掛けの大掃除で、教室の床磨きに使用する洗剤を、地球環境にやさしい分解しやすいものに替えました。ワックスがけのモップも、洗うのが簡単でワックスの伸びもよいモップにしています。そのため、洗うために必要な水の量も使用するワックスの量も少なくなり、「エコできれいになる掃除」を生徒に意識させながら清掃しています。

(4) 冬期間のお湯づくり

冬期間の教室掃除では、ポット形式の加湿器で温まった水を使います。また、黒や濃い色のビニールテープを巻いたペットボトルに水を入れ、朝から窓際に置くと、午後には太陽熱によってお湯になったものも使います。生徒はこれらのお湯を使った拭き掃除をしながら、少しの工夫でエネルギーの節約になることを身に付けています。



(5) SDG s の学習

総合的な学習の時間にSDG s をテーマに調べ学習を行い、レポートにまとめて発表を行いました。生徒一人一人が自分自身の生活を見直す良いきっかけとなりました。

3 取組の成果

令和3年度からの取組を継続したが、繰り返し生徒に意識させることで、確実に実践力が高まってきています。また、継続している取組だけではなく、清掃や部活動など他の活動時にも「持続可能かどうか」といったSDG s の意識が生徒に見られるようになってきました。本校は豊かな自然に囲まれているので、今年度も更に環境に目を向けさせる指導を行っていきたいです。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	249	学校名	仙台市立加茂中学校	校長名	伊藤 勝
------	-----	-----	-----------	-----	------

- 1 取組のタイトル、テーマ
日常生活のエコ活動と地域連携



- 2 取組の紹介

○エコキャップ運動

リサイクルに対する意識を高めるきっかけとして、職員室前に回収ボックスを設置してペットボトルキャップを回収しています。ボランティア委員が中心となりポスター作成や呼び掛けを行っています。ペットボトルキャップを回収することで、プラスチックごみの削減や障がい者の方々の就労支援にもつながっています。また、回収したペットボトルキャップは回収業者に渡し、最終的には世界中の子どもたちにワクチンを届ける活動に変わります。



○花壇整備活動

ボランティア委員会の活動の一環として、学校内の花壇の花の植え替えを年2回、水やりを毎日行っています。例年は体育館前の花壇のみでしたが、今年度は生徒昇降口前にもプランターを設置しました。



○地域ボランティア活動

部活動に所属している生徒や有志の生徒たちが地域ボランティア活動の一環として、落ち葉掃きを行いました。今年度は北環状線や加茂中学校前のバス通り、古内志摩の墓前を地域の方々と協力して行いました。



- 3 取組の成果（児童生徒の変容）

エコキャップ運動は、昨年度感染症対策のため中止していた期間がありましたが、生徒たちからの要望で再開し、現在も1か月もすれば回収ボックスに入りきれないくらいの量のペットボトルキャップが回収されており、生徒や家庭の意識の高さを感じます。また、花壇整備や地域のボランティア活動についても、生徒たちが自ら進んで活動する様子が多く見られ、年々ボランティア活動に対する積極性が向上しているように感じます。今後もこれらの活動を継続していくとともに、更にSDGsに関わる取組を考えていきたいと思ひます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	250	学校名	仙台市立将監東中学校	校長名	工藤 京子
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

生徒が主体的に取り組むエコ活動



2 取組の紹介

(1) 地域清掃

ふるさと復興プロジェクトとして震災後から取り組んできました。「自分たちにできることは何か。まずは身近なことからできることから始めよう」という思いから始まったものです。また、日頃からお世話になっている地域の方々に感謝する心を育み、地域との絆を深めることも目的としています。

当日は学年ごとに割り当てられた地域の落ち葉掃きを行い、一人一人が黙々と取り組んでいました。清掃を終えた後の公園や道路の美しさを見て生徒一人一人が充実感を得ていました。清掃で回収した落ち葉は、市民センターに集約し、地域で腐葉土づくりに必要な方々に配付されました。



(2) ごみの分別活動

各クラスに燃えるごみ用とプラスチック用のごみ箱をそれぞれ設置し、日頃から分別を呼び掛けています。



(3) 残食ゼロコンクール

給食委員会が昼の放送で栄養士さんにインタビューを行い、残食についての現状を知る機会としています。また、それ以外にも、定期的に給食クイズを行うなど食育に取り組んでおり、給食を残さずに食べる雰囲気づくりを行っています。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

コロナ禍であっても様々な活動をとおして、地域との交流を持つことができました。活動する中で、地域の方々から感謝の声や励ましの声、そして中学生に対する期待の声をいただきました。主体的に活動に参加しながら地域と関わる中で、生徒の自己効力感が向上にもつながっています。平時から地域の力となり、災害対応や復興に参画する「共助の力」の育成につながることを期待しています。

また、生徒たちは、身近なところからできるエコ活動に無理なく取り組んでいます。その中で、持続可能な社会づくりを意識し、自ら考え、解決に向けて行動することができる生徒の育成につながることを期待しています。